

地域包括 **かこがわ便り**

オレンジサロン (認知症予防教室)



← ブログはこちら (*^▽^*)

令和4年
秋号
VOL.43

6月のオレンジサロンでは、加古川市役所 高齢者・地域福祉課、地域包括支援センターかこがわ南、就労支援センターの方にもご協力をいただき、認知症の当事者から「**認知症のご本人からのメッセージ**」と題しまして対談形式で、診断された時の思い



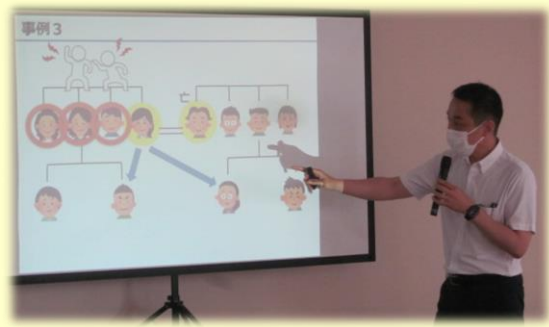
や、周りの反応、現在の状況をお話いただきました。「もの忘れはすぐにでない」「生活の中で今までとちょっと違う」「何かおかしい…」「気持ち悪い感じ」診断された時は、「やるせない」「何かスッパリしない、もやもや

した感じ」「受け入れられずに腹が立ってサッカーボールを蹴った」そして、「**病気に負けたくない!**」と様々な思いを私達に伝えてくださいました。今後は、「**前向きにチャレンジしていきたい!**」と力強く話され、参加者も我が事とらえ真剣に聴いていたのが印象的でした。最後にギター演奏で、好きなサザンオールスターズの「**チャコの海岸物語**」をみんなで熱唱しました。今後、地域包括支援センターとして何ができるのか、私達にとっても一歩前進するための良い機会となりました。「**認知症でも安心して暮らせるまち**」を目指して頑張っていきたいと思っております。



介護ほっとカフェ (介護者のつどい)

6月の介護ほっとカフェは、梅谷法律事務所の司法書士 梅谷正太先生より**相続について**お話していただきました。遺言書や公正証書のこと、最期の時に向けて今からどんな事が準備できるか? 本人が亡くなったあとの手続きについてなど、事例も交えながらわかりやすくご説明いただき、参加者からは興味津々のご質問がたくさんあがっていました。普段**司法書士**の先生にお話をきく機会がないので、**専門的なことが聞けて良かった**と喜んでおられました。



7月は「**終の棲家について考える**」というテーマで開催し、兵庫老人ホーム介護施設紹介センターの方をお招きして施設について教えていただきました。老人ホームへの入居理由の第1位は「**ひとり暮らしの不安をなくしたい**」だそうで、老人ホームも多くの種類があるため、費用面やサービス内容、最期まで暮らすことができるかなど、選ぶ際のポイントも学ぶことができました。また、施設の情報提供を無料でして下さるということに一同ビックリ! 「早速義理の親の施設のことを相談しようかな」と話される方もいらっしゃいました。

6月も7月も、講師の話から学んだ後は、**参加者同士でのピアサポート**の時間です。参加者の方から「**毎月ここに来て、介護での思いをみんなが聞いてくれるから嬉しい**」と話してくださいました。同じ経験をされた方同士、思いを共有することで自分だけじゃないんだと安心につながります。**毎月第2金曜日の13時30分**から開催しており、誰でも参加しやすい場をつくっていますので、介護ほっとカフェにお気軽ご参加ください♪

加古川町内介護支援専門員・民生委員合同研修会



6月23日、総合福祉会館にて加古川町内介護支援専門員・民生委員合同研修会を開催いたしました。「ケアマネジャーと民生委員の意見交換～お互いに関係性を深めよう～」と題し、総勢**66名**の方にお集まりいただきました。研修会では、まず民生委員の役割や、ケアマネジャーの仕事内容を共有し、その後グループに分かれて意見交換を行いました。民生委員さんからは「安心カード」の

説明や、訪問しても家の中まで入ることができないというルールなど、改めて知る機会となりました。「**もっと話したかった**」との声が多数あがり、今後も定期的に**交流を続けていけるよう**研修会を重ねていきたいと思っております。

加古川町内介護支援専門員研修

8月23日、総合福祉会館において、加古川町内介護支援専門員研修会を開催し、今回は**事例検討会**を行いました。今回の事例は町内のケアマネジャーより「**独居がさみしく、虚言さえ厭わずに、周りを振り回す女性の施設入居について**」と題した事例を提供いただき、**15名**のケアマネジャーにて検討しました。キーパーソンの不在、認知機能の低下、経済的な課題など複合的な課題を抱えていますが、事例検討を通して、参加されたケアマネジャーそれぞれの意見や経験談から視野が広がり、担当ケアマネジャーにとって新たな気づきも得られた機会になり、みなさまから**良い機会になった**と嬉しいお言葉をいただきました。事例検討会をすることによって、異なった視点、新たな対応方法が見つかることに**ケアマネジャー業務の奥深さ**や、お力の大きさを感じています。コロナがなかなか落ち着かない状況にも関わらず、事例検討会に参加いただけたことに感謝いたします。



認知症サポーター養成講座



7月14日、播磨薬剤師会より依頼があり、**薬剤師を目指す薬学部学生12名**に対し、認知症サポーター養成講座を開催しました。窓口業務などでの対応の仕方を学ぶことを目的として、研修の1コマに導入していただき、現役の薬剤師や、訪問鍼灸士が講師として講義を行いました。職業人の先輩として、「これまでに心理的葛藤を経て、やっと認知症の人と向き合えるようになった」など現場の生の状況をお伝えし、なおかつ**学生を励ます助言**をされていたことが印象的でした。受講された学生のみなさまの**感受性の強さ、洞察力の鋭さ**に、キャラバンメイト一同感心させられ、講座のねらいやメイトの思いが的確に伝わった嬉しさを味わいました。

今年も**但陽信用金庫**さんから認知症サポーター養成講座の依頼を受け、**オンライン形式**で9月13日に開催しました。毎年、**新入職員向けに開催**して認知症の理解を深めていただき、正しい窓口業務ができるように、また、地域でその知識を役立たせることができるようにと、全職員さんが認知症のサポーターになってくださっています。今年は**26名のサポーター**が誕生しました。コロナの前までは、寸劇形式にて認知症役の方に対する窓口業務の好ましい対応方法を実演していただき、笑いあり、緊張ありの講座でしたが、それにも引けを取らないほどの濃い内容で今年も認知症のご理解をいただけたかと思っています。 R4.10

